Oct. 1891
no 288

女學雜誌

第二百八十八號

明治二十四年十月廿四日發兌

嚴肅なる人の笑

春の舍漫筆の評

教育者の快樂　社說

西遊記を讀む感

小說を作る要素

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 288. October 24th. 1891.

EDITORIAL: Pleasures of Educating.

CHILDREN'S COLUMN: "Little Lord Fauntleroy."

NOVEL: Musoken. "Nagre no Ashi." (A Reed in the Stream.)

MISCELLANEOUS: Preface to the Translation of "Little Lord Fauntleroy." (By the Translator.) In Reading Saiyuki. What Constitutes a True Story

THOUGHTS AND FANCIES: The Laughter of a Solemn Man. Life is made of Littles.

BIOGRAPHIES

CRITICAL NOTES.

NOTES AND NEWS.

第二百八十八號目次

●社說 教育の快樂

●兒籃 小公子（若松しづ子）

●小說 無想顏（暗光子）〇流の茶（是空子）

●雜錄 小公子の序（若松しづ子）〇西遊記を讀む（天知子）〇小說の要素

●隨感 嚴肅にして笑ふ人（しのぶ）〇人世の瑣事（もみぢ）

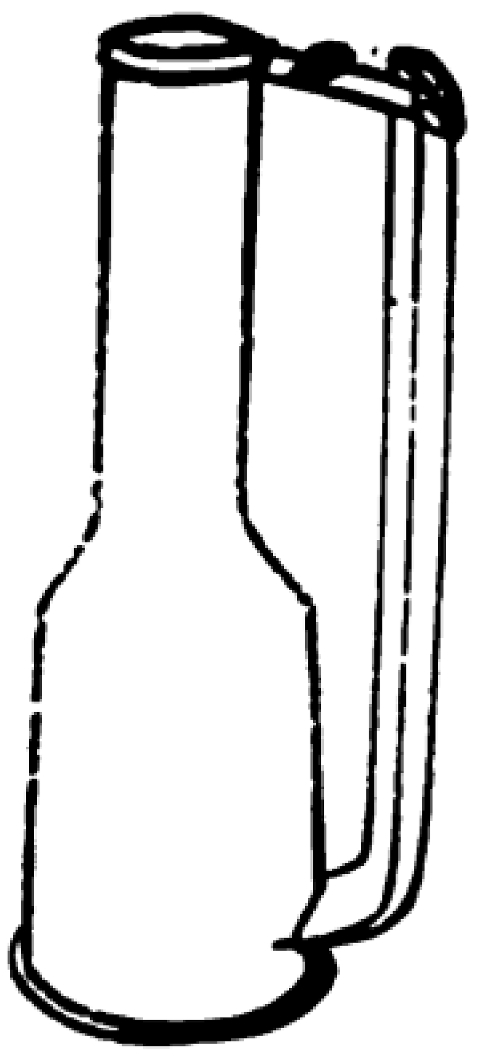
●史傳 吉田松陰先生妹、楫取夫人の傳

●批評 春の屋漫筆〇梅ての〇美術園〇蛛中時事

●時事 自由黨大會〇三對〇支那事件〇女學復興〇東華學校

●女報

新發明品 手桶湯わかしの廣告



一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扨て、此の儉約を爲さんには、家の内の用事を成べく簡略にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみならず、勉強を生じ、人々心はげみて皆々面白くなり、一家相樂しみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームと爲すものなり。此主意を以て、吾社はホームを美しくすると共に樣々心を碎き多年、文雅教育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家内の實際の改良を促がすもの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、臺所元の入用を少くするの方法を工夫せんとす。扨て第一に工夫したるは、手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす。器具は至つて簡便なるものにて圖に示すが如し。手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても皆な用ゆべけれど、冬向き台所用に使はんに、手桶に投げ込み置き、二十分にて湧きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寳ならんと思ひ付き、假りに「手桶湯わかし」と名づく。代價は銅製にて一個一圓五十錢とす。更らに追々工夫して廉價にて出來上るやうにすべし。

各地方にても配達運輸すべし

東京麹町區下六番町六番地 女學雜誌社家具部

北海道函館末廣町四十九番地 一手賣捌 齋藤政七

女學雜誌　第二百八十八號　明治二十四年十月廿四日發兌

社説

教育者の快樂

左の一説は明治女學校生徒の爲に演説したる者の要畧なり初に敎育と云へる事に關する古今名家の解釋十八種を擧げ示し、遂に「敎育は人を完全に發達せしむるとを主旨とする者」と斷定し、完全なる人とは、天を敬し、人を愛し、己を重んずると、基督其人の如くなるを云ふと例示し、遂に此「敎育の快樂」を說くに至りぬ。近頃時事に感激する所ろあり敢て此抄畧の說を公けにするとを爲す、讀者もし意を推して前後に貫ぬく所ろの者を察せば幸なり。

(一) 孟子曰く、天下に三の樂あり、王たるとは與らず、父母兄弟恙なく居ます一の樂なり、仰で天に愧ず伏して地に恥ざる二の樂なり、天下の英才を集めて之を敎育する三の樂みなりと。

(二) 英才を集めて敎育するは素より樂の大なる者と雖ども、未だ其最大なる者と云ふ可らず、敎育に於ても亦其の最良の者と云ふ可らざるあり、英才を育して英才となすは敎育の主旨にあらず、平凡尋常の兒を敎へて之を英才となすを以て、敎育の至眞至樂なるものとす。ミス、ピーボデー其幼稚園論に謂へらく、母は其兒を愛し、敎師は其才を愛すと、才を愛して之を敎育するものは完人を養成すると能はざる也。

(三) 天は惡しき者の上にも義しき者の上にも雨を降らせ、日を照らし、天地宇宙の大思想を掛け示す、天が人を六合の學校に置くや、義者不義者賢者愚者の差別なく皆一樣一齊に之を敎化せんとするなり。天は無益の事を爲さず、尤も賢、尤も正の事は即はち天の則に據るに在るのみ、天は萬人を同等に敎訓せり、而して其敎訓の効を奏せざるものあるとあし、皮相外觀を察して効を一時に求め、敎訓の果直ちに結ばざるを以て養成遂に無益なりと云ふものは愚なり。

(四) 人皆敎へて善者英才となすとを得べしと。凡そ此の信仰なきものは、只だ英才を敎育するを以て樂みとし、萬人皆敎ゆべく、共に善化すべしとの天理を信ぜざるなり。此故に、英才を育するもの、富者の子を敎ゆるもの、貴族の子を敎ゆ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るものはあり、普く人を教育し、貧者、不具者は言ふ迄も無く、瘋癲白痴として度外に放棄せられたるもの迄をも教育せんとするは、万人皆神の殿なることを信ずるものにあらずんば能はず。此故に基督教の徳行わるゝ迄は、汎く人類を教育するの風あるを見ず。基督曰く、幼子の我に來るを許せと。ペスタロッチ、フロエベル切に此心を體せり。故に此種の教育者出るに及びて、初めて人類教育の事行わるゝに至れり。如何なる人にも一樣の教育を施こすとを得べしとは、ペスタロッチが初めて實行顯彰したる所ろの眞理なり。フロエベル曰く万物の運命は其中に存する神の性を發露するに在り、故に教育は人の心の中に存する神の法を顯はすにあり、人の中の神を現はすにありと。又曰く、教育者が幼兒を見ると、猶ほ神の善と愛との目前に現在せる生ける象徴を見るが如くなるべしと。

（五）創世紀の初に云く、人は神に似せて造らると、新約書基督の末期に云く、吾は世に勝てりと。抑そも、人が神に似、神に同ずるの靈性を備具する事、若し之を發揮すれば、神と和らぐとを得、神の子となるとを得、神と一躰たるを得るとの理は、世開けてより此の方、尤とも高尚ある人々の心の中に常に固く信ぜられたる所の眞理なり。人にして心に神靈を宿さゞるものはあらず、故に其幔幕を開き其靈性を啓導せんとして、而して其神あらざるものはあらず。

（六）サミウエル、スマイルスが自助論及品行論を讀たるものは、王侯相將に種あるとなく、人の性皆相近し習つて而して相遠ざかるの理昭々として明らかなるとを見ん。ホーマーは小農夫の子、バーヂルは門番の子、コポルニカスは麵包焼の子、ケプレルは酒屋の子、シエクスピアは材木商の子、ミルトンは金貸の子、コロンパスは職工の子、フランクリンは蠟燭屋の子、米國大統領の中、リンコルンは鐵道人夫たり、グラントは柔皮匠たり、ガーフヒールドは舟曳たり。豊太閤は尾張の細民の子、漢の高祖は泗上の亭長たり。此等の偉人は大率ね皆平凡聞へざる人の子にして、別に新らしき種を天外より享受したるにあらず、只だ其内なる性を開發し、其美質を外に啓導したりしかば、遂に如此き偉大の人となりたるなり。

（七）然れども、此等有名の數多の偉人は、其先に更に多數の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

無名英雄ありて之が師父となり、以て其美質を遺傳したるものならんと云ふ人あり、此論大ひに可なり、然れど遺傳も亦人の美質を傳ふるに過ぎざるなり、其師父なるもの更に其師父の敎化を受て以て開發し、其開發したる所の美質を其子弟に傳へて以て所云る著名の偉人を造り出せり、之を要するに亦是れ人の性の美しく開發したるに淵源せずんばあらざる也

（八）　昔し支那の某は我家宰相を出さんとて、門に槐を植えけり。左れど、偉人を出すは名家の末のみにてはあらざる也。病の床に孤劍を揮ひ、遂に成すと無くして憤死したる老翁の子、亦は小暗き行燈の影に糸を紡ぎ、謹直なる勞力を以て正義の粟を食ひたる老婆の子は、生れ乍ら忠直正實の氣風を得たり、此子長ずる後ち發達して偉大の人物となりたるは、安んぞ其老翁老婆が美質の集積影響したる者にあらずとせん。英國の學士ガルトンは遺傳の理を研究し著名の人に必らず秀拔の父母あるとを示せり、然れども其秀拔なる父母には何如の父母ありしか、思ふに亦多少非凡の資なかる可らず、蓋し人の才は漸やくにして成れり、譬へば蠻民の漸やく開化して文明の民となるが如し、左れば今日に名を著わしたる偉大超高の人は、幾多無名の人の才智思想漸やくにして畜積集成したるに淵源するとを思はざる可らず。故に遺傳の理法の嚴そかなるとを知るものは、今日の英才は一朝にして成れるにあらざるとを悟り、亦今日の鈍才は決して之を棄つべきにあらざるとを感ずべし、今日の鈍才に多少の智德を與ふるは、後日の英才の種なり、此故に只だ英才を愛するは敎育の主旨にあらず、鈍才に望を失ふも亦敎育の安心に非ず、寧ろ英才は之を放任すとも鈍才は篤く之を敎へて其一日も早く英才造化の源由とならしめんとを希圖せざる可らず。

（九）　人に必然の癈人なし、若し之を敎育せば皆完全の人となるとを得べしと。敎育者もし此の信仰を欠かばその安心あらざるなり。基督の十字架上に死するに當てや、主の行き玉ふ所には何處にも行ん汝は生ける神の子なりと贊嘆したる弟子輩は、皆恐れて散亂し、天下の智識を集めたる羅馬の學者判官は目慾に盲して光を見ず、觀者四方に環り、情けを氷の如くにし、冷笑して嘲けり、匹夫官人驕然として撿視し、下郎鎗を揮つて之を刺す。夫れ天下の至聖に會して其聖を覺らざるは、至惡なり。神の子基督を侮し基督を罵り基督を虐殺す

るに至ては人情の極惡極醜を盡さずといふとなし。故に神學者は云く、此時惡魔はあらん限りの惡を行ひ、人情は汚わしき限り汚れたりと。人は果して怪獸惡漢となれるなり、其良心消ゑ其愛情亡び、其靈性殆んど失せたるに似たり。若し説を容れざるによりて絶望し、位の登らざるによりて世を果敢み、貧困窮乏によりて人情を疑ふが如き類輩をして此時に際せしめば、彼等は人を指して如何なるものと言はん哉。左れど基督は言へり、吾世に勝てり神に感謝すと、即はち人の悉く救はるべきとを言ふなり。而して人の救はるべきとは人の神の如くなるとを言ふにあらずや。然らば則はち基督は此の極醜極惡の人を見て敢て絶望せず、如此き徒も遂には神の子の如くなるとを得べしと斷言せり。此の斷言は何如に強き信仰を世の教育者に與ふるや。教育者は學生の化し難く、卒業生の迷ひ易きを見て悄々しく失望するとなかれ、大聖の人基督をも殺すほどの惡を為せるものも尚善に歸るとを得るにあらずや。基督曰く神よ彼等の罪を許し玉へ彼等は知らざれば也と、之をして知らしむるは則はち教育者の任也。

十）人は皆完善に發達するとを得べし、然ども人は元來自由の意思を有し、善惡の何れにも進行するとを得るが故に、若し之をして善に發達せしめずば則はち惡に發達すべし。人は二人の性あり、その能く完善ある善に發達するとを得ると共に亦惡に走るの自然性あるなり。而して之を善に移し善の方向に發達せしむるは即はち教育者の任なり。ダル井ン曰く、人は包圍に隨て化すと、則ち善に化せしむるの包圍を供ふるは教育者の任也。クリスト曰く、神を信ずるものは救はると、則はち神に近かしめ神の包圍に接せしめ以て救はれて完人とならしむるは教育者の任也。

（十一）教育の目的は人を基督の如くにするにあり、故に教育者は學生の心を神に近づかしめ、万物の智識を徹して神の力神の愛を直覺せしめ、世に處する法則の中に、儼然たる神の則あることを確認せしめ、學生を神と和らぎ、神と一躰たらしむる者あり、此故に教育者は一種の牧師なり、牧師は一種の教育者あり、其間に徑庭あるを見ず、只だ教育者は世の智識を教ゆると多く、牧師は靈の知識を説くと多しといへとも、詮ずる所遂に同じからずと云ふとあし。余は思へらく、今后教育者と牧師との區別は益々不分明となり、遂に牧師は教育者中の大先覺が之を兼るに至るべしと。マルテン、ルウテル曰く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

余もし說敎者たらざりしならば必らず敎師となりしならん實に余は其何れか優りて好きを知らずと。ペーン曰く說敎者は倫理の敎師、神の眞理の說明者なり、敎師は世の智慧の說明者文學及學術上の說敎者なりと。

（十二）　ソロモンは神の殿堂を建たり敎育者は人の心に神の殿堂の扉を開く。昔しイスラエル人はバベルの堂を半ばにして止めたり、敎育者は人の心を高く天に達せしむ。主曰く、汝等萬國に行きて福音を宣べ傳へよと、敎育者は萬人の心に入て茲に福音を成長せしむ。敎育者にして只だ藝術末技のことに跼蹐し、人の心を神に近づき神と和らぎ神に似て神と一躰たるものとならしむることを得ずんば、其の敎育の最大目的最要主旨を達せざるものなり。何んとなれば、敎育の要旨は、人を基督の如くするにあるがゆへ也。

（十三）　昔しルソウ、片田舍に敎へざる頑童の碌々として惡戯するを嘆じ、傍らに富人の家の聳へて富者の獨り榮華に耽るを慨して、曰く、嗚呼世人何ゆへに此幼兒を敎へざる乎と。吾等今の無學兒を見て、常に此歎なくんばあらず。誰か北海道の荒蕪に歸するをのみ憂ひとする、幾万の人の心は尙ほ茫として開拓されざるにあらずや。

（十四）　鮑叔が管仲を誘ひ出し玄德が孔明を引用したるが如く、敎育者は人の中の人を誘導啓發し、空しく胯下に蟄居するの善者義人を世に招ぎ出す。敎育者あるによりて人の中の善人即はち眞の人は世上に露はれ來るなり。敎育者ありて初めて人あり敎育者は第二の造物主なり。

（十五）　神が、其神たる如く人を敎育せんとなし玉ふや、生ける基督を下し、其活ける摸範によりて人を敎へ玉へり、敎育者も亦た自ら活摸範を爲らずんばある可らず。只だ言語によりて人を敎へんとするは、只だ文字によりて人を益せんとするに同じ、蓋し行なきの言語は死せるに均しきなり。敎育者ペープ、カーペンター夫人曰く、人の子を當然に敎育せんと欲するは敎育者になりて第二の事務なり、尙容易なり、第一の事務は先づ自ら敎ゆるにあり、之を尤難しとすと。斯て敎育者は道に肉躰を添て人を救ふ。其爲す所ろは基督が十字架上の天職と同じく、神が基督を世に下したる攝理と同じ。敎育者の爲す所は基督の爲し玉へる所ろ、亦神が爲し玉ふ所ろのものあり。敎育者は世に立ちて神の事を爲し一個の小基督となりて人の靈を救ふものなり、生れて此の榮ある職を荷ふ、快樂何ものか及ばん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

兒藍

小公子

第十一回(丁)

若松しづ子

併し、フォントルロイは久しく口を開かずに居られませんかつた。みんなが何かしら言葉を掛けては、話しをさせたがり升た。婦人たちは可愛がつて頻りに、色々なことを問ひかけ、紳士たちも話しかけたり、冗談を言つたりすることは、地中海を渡た時分と同じ塩梅でした。フォントルロイは自分が返辞をする度に人々が笑ふ様なのを不思議に思ひ升たが、又考へて見れば、自分の真面目な時に人が面白がるとは度々あるので、格別氣に掛けはしませんかつた。そして其晩は始めから終りまで、誠に愉快なことだと思つて居升た。いとゞ壯麗を盡した、廣間が、此晩は数知れぬ燈でキラ〳〵してゐ、花は多く、人は皆浮々してゐる、婦人たちは身に珍らしい美事な着物を着、頭や頸には燦びやかな飾を附けて居りました。さてロンドンに交際社會の賑き季を過ごして來た若い婦人が有つて、餘り美麗な婦人なので、人が目を離すことが出來ない位でした。此婦人といふは、一寸丈高く、凛として高尚な風采が有つて、髪は柔らかく、眞黒で、其さえ〳〵した眼は、紫の蝶花の色に似、頬や唇の色は薔薇に似て居り升た。若物は美事に純白で、頸には眞珠の飾が有ました。此娘君に付ては、ひとつ不思議なことが有升た。紳士たちが幾人も側へ立つて居て、其機嫌をとらうとして心配してゐる様子でしたから、フォントルロイはお姫さまの様な人かと思ひ、自分も頻りに引寄せられる様な心地がして、我知らず、段々側へ近づき升た。スルト、とう〳〵此婦人が振り向いて、言葉を掛け升た。可愛らしくホヽ笑みつゝ。

フォントルロイの若様、一寸こちらへ入らつしやいましな、そして、あなたがそんなにヂット私を見て入して、何を考へて入つしやるか伺ませう、

若様は一向臆面なく、

僕、あなたがどふも奇麗な人だなと、考へてたんです、

といふのを聞いて、紳士たちは一同抱腹し、彼の娘君も少し笑つて、ホンノリとした顔の色が一層紅になつた様でした。

そして、一番高笑ひをした紳士の中で一人が、

イヤ、フォントルロイ、今の中に、言ひ度事を澤山いふが好い、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

今に、成人すると、それ丈のことをいふ勇氣がなくなるから。

フォントルロイはます〳〵、無邪氣に、

ダツテ、誰だつてさう言はずに居られないでせう、あなたなんか言はずに居られ升か？ あなた（力を入れ）あの方奇麗だと思ひませんか？

スルト、其紳士が、

僕たちはネ、思ふことを言ふのも禁じられてるのだ、

と云ふと、外の者はいよ〳〵高笑ひに笑ひ升た。然るに、ヴィヴィアン、ヘルベルトといふ其美人は手を出して、セドリツクを自分の方へ引寄せ升た。そして、なほ〳〵奇麗に見え升た。

フォントルロイ樣は、何んでも思しめすことを自由に仰つて下さいまし、そして、あなたのお言葉は何事もお心のまゝと存升から、誠に有難く頂戴致しますよ。

といつて、頰にキスをし升た。フォントルロイは感歎に餘るといふ、無邪氣な眼で、孃君を見詰め、

僕はネ、かあさんを除ければ、あなたの樣な奇麗な人見たことがないと思ふんです、ダケド、マアかあさんほど奇麗な人有りやしませんからネ、僕、かあさんは世界中で、一番の美人と思つてるんです。

それはさうに違ひ御座いますまいよ。

とヴィヴィアン孃がいつて、又笑つて、頰へキスをし升た。彼の孃君は其夜宴會の終り頃迄フォントルロイを側へ引つけて置き升たから、兩人を中心にしたる一群は誠に賑やかなことでした。フォントルロイは、自分でも、どふしてさうなつたか譯が分りませんかつたが、つひ知らぬ中に、アメリカのこと、共和黨の集會のこと、ホツプス、ヂツクのことを話す樣になり、しまいに、鼻高〳〵とポツケツトから出して見せた物は、ヂツクの餞別で、即ち赤い絹のハンケチでした。そして、

今夜はネ、宴會だつたから、ポツケツトの中へ入れたんですよ、ヂツクが宴會なんかへ持つて出れば、嬉しがるだらふと思つたんです。

そして火の附た樣な色の、大きな形のある其品は、いかにも無風流におかしくとも、あまり眞面目で、懷かしさうに、かふいひ升たから、聞いてゐる人たちは笑ふことも出來ませんかつた。

ヂツクは僕の朋友なんでせう、ダカラ、僕これが好なんで

す。

といひ升た。此通り始樣話しかけられ升たが、侯爵の仰つた通り、誰の邪魔にもなりませんかつた。人の話しをする中は靜かに聞いてゐるとが出來升たから、うるさいと思ふ人は有りませんかつた、時々お祖父さまの椅子に近く行つて、立つてゐたり、間近に有る足台へ腰を掛たりして、顔に其顔を打守つたり、其お口から出る言葉を聞惚れてゐるかの樣に一言〱熱心に耳を立てゝゐるのを見る人の中に、實際有りげにホヽ笑む人がいくらも有り升た。一度などはお祖父樣の椅子の背掛へ寄係つてゐて、自分の頰がお肩へつく位になり升た時に一同ニッコリしたと氣がついた侯爵は、御自分も少し笑われました。御自分でも傍觀者たちが何の心でホヽ笑むかといふとを御承知で、御自分に付て世間一般の者と同じ考へをしても決して不審のない此小息子と、[illegible]仲の好いのを人に見せるのが愉快な樣でした。

ハヴィシャム氏は午後に來客の筈でしたが、不思議なとに、此夜は少し遲刻しました。此人物がドリンコート城へ出入りを始めて以來かふいふとは、甞て無かつたとでした。餘り遲いので、客たちは待たず食卓に着ふとして居り升た所へ漸く來着し升た。先づ侯爵に會釋しやうとして、近き升た時、侯爵は其顔を打守つて驚かれた樣子でしたといふは、氏は平常の沈着を打つて變つて、何かヤキ〱したものか、さもなくば心が浮立つて居るかの樣で、艶氣のない、俊卒な其老顔は、既に青ざめて居升た。そして低い聲で侯爵にかふいひ升た。

思はず、遲刻いたし升た、非常な事件が起り升て、

待に應じるなどゝいふは、此嚴格、老成な代言人に取つて稀な事でしたが、此時は餘ほど非常な出來事と見え升た。食卓に着升ても、食物が咽を通らぬかの樣で、二三度人に話かけられた時も、よく〱放心して居て、ドッキリ驚き升た、食事も中半過ぎて、フォントルロイが坐敷へ出升た時には、何か安からぬ樣子振りで、モヂ〱して見詰て居たとが一度ならず有升た。フォントルロイも其顔を見て、不思議だと思ひ升た。自分とハ氏は至極、仲が好いので、顔を見合せさへすれば、互にニッコリするのでしたが、ハ氏は此晩に限つてホヽ笑むのまで忘れてしまつた樣でした。

實は、其夜の中に、是非老侯の耳に入れねばならぬと決した

不思議な凶報の外、何事でも忘れて居つたのでした。其報告といふは、實に奇有の大事で、萬事の躰面を變じるとと承知して居つたのでしたが、壯麗な廣間や、華美な集會を見るにつけ、他のとはさて置き、此美事な若君を見樣が爲計りに、かく賑々しく集まつて居る處を眺めるにつけ、傲慢な老貴人を見、其側にニコ〳〵してゐるフォントルロイを見るにつけ、自分が世なれて、情に負けるとを知らぬ代言人で有るにも係らず、非常に心を痛め升た。自分が今報ぜんとする事一ッデ、將に引起さうとする驚歎の恐ろしさよと思つて居升た。

實に山海の珍味を盡して、長〳〵と引延びた宴會に侍つた、ハ氏は、其始め終りが、どの樣で有つたか、夢に辿る者の如く、一向夢中でしたが、たゞ侯爵が不審顏に自分を打守つて居られるのに、フト氣がつき升た。

さて會食も終り、紳士婦人は食堂を離れて客室に移りました。其折にフォントルロイは近來ロンドンの交際社會で大評判の美人ヴィヴィアン、ヘルベルト孃と共に腰かけて居る處でした。兩人は何か畫本の樣なものを見て居た樣子で、フォントルロイは孃君にこれを見せて呉た禮を言て居た處へ戶が開升た。

僕に深切にして下すつて有がたう、僕はネ、まだ宴會なんかに行つて見たとがないんです、ダカラ、僕大變面白かつたんです。

余り面白かつた處爲か、紳士たちが又〳〵ヘルベルト孃の周圍に集まつて、話しをし始めたのを聞いて居て、笑ひながらいふとを聞きとつて、意味を解さふとしてゐる中に、まぶたが少しづゝ重げに垂れ始め升た。殆んど眼が閉ちてしまふ時分には、ヘルベルト孃の低い可憐な笑ひ聲で呼び醒され〳〵して、又二セコンド程も眼を開いて居り升た。自分は決して眠るまいと決心しても、頭は後ろにあつた大きな黄繻子の布團に沈づむ樣に收まり、まぶたもとう〳〵垂れ切りに垂れてしまひ升た。久しく過てからの樣に思われ升たが、誰か來て、其頰に輕くキスをした時でさへ、眼が全くは開きませんかつた。其人といふは、とりも直さず、ヘルベルト孃で、歸りがけに、低い調子で、捨言葉をして行ました。

フォントルロイの若樣、御ゆつくりお休み遊ばせ、御機嫌よう。

自分が此時眼を開けやうとして、口のうちで、モガ〳〵。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

お休なさい……僕……あなたにあ……あつて嬉しいんです、あなたは大變……奇麗……

といつたのも、朝になつては知りませんかつた。たゞ此紳士たちが又何か大笑ひをして、自分では、何事か知らぬと思つたのを朦朧覺へて居り升た。

同情

君もやつたさうだネ、さうとも大抵はやるんだ。君、實は僕も一度やつたとがあるんだぜ、まだ獨身かなんぞつて君に冷かされるけれど。ウンさうか。去年の夏。ウン。箱根で。ウン。出逢つたのよ。彼の嬢君に。そこで一つ叩いて見やうと思つて。さうとも、運だめしに。それからある宴會でまた出つくわした處で。人なき間を見すまし、胸がドキ／＼したが。さうとも、僕も丁度さうだつた。それから、やつとのことで、胸を靜め、思ひ切れ、恰を定めて。ウン言ひ出したか。さうとも。僕もさうだつたよ、思出されるぜ。併し君は果報ものだ。ナニ。あとは聞かずともだ、どふもおめでたう、ゆつくり樂み玉へ、それで滯りなく輿入れも濟み、ハネムーンも一寸過たつていふ時分に僕も一寸尋やうネ、おちかづきにさ……。ナニ、なんだつていふんだ？ヱー……指斥だとツ？ほんとうかへ？さういへば僕もそれだつた。

小説

無想劍

第三回　愛惜の袖も露けき墓場の月

晴光子

宇宙は靜かに眠り地は死したるまゝ氣息もなく、怪しげなる一本松の梢より覗くが如き月の冴えたるも物凄し。誰が假寢の夢の跡にや、搔き迷ふたる曉の露もつ袖を濡れながらに吹く眞理の山風に、幾星霜も曝されつゝる石音を破ぎて、無殘にも亂れ重なる多くの石塔が、あなめ／＼と招く亂雜の秋草に閉られ居るも無常なり。人世といふ大潮流に流れ漂ふたる喜怒哀樂の所在處も涙も、戀愛の記憶すらも靜かに吸込み終りつる陰暗の土穴に、永訣の萬感を刻み付たる石標があはれに立竝せる此墓場に、一人の處女悄々として火を焚きさし幽かに念佛唱へて居りけり。淋きに風雨傘が詣らずも端居して見たりし朦朧たる白氣は、此焚火より立昇る煙が月の光りに白く映りたるにてありき。

處女は石に腰打かけ、消へゆく煙りの往く末をつく／＼と眺めては嘆息し、物も得言はで思ひに沈み時々遣る瀬なきにや

瞼を屢瞬くのみ、

「アヽ思ふまい、思ふた所が仕方がない今は大事の身だ再び三度嘆息して力なげに身を起し、恭しく傍なる墓の前に跪坐て、暫しは涙に言葉もあらざりしが、儼かに容儀を正し

「南無、亡き父上母上、靈在さば不孝の娘が言葉をも聽き給へ、いたましや御位牌さへ安んじまつる宿もなく、讐の行えさへ少しも知れず、父上が無念の御最後を慰さめまつる事も出來ず、母上が臨終の苦しき御言葉さへ安んじまいらする事出來ず、いかに女子とは言へ餘りに言ひ甲斐なく侍るかし、心の油斷に天魔の魅入りてや、此頃何故か心弱くて他心に鬱々する事多かりし、南無、此戯けき遊惰の心を許し給へ、今日こそは改心の爲め且は忽汚しまつらじと、勿躰なくも御位牌を燒き盡しまつりたり、今は身輕く心も決し申せば、日ならず御無念を晴しまいらすべし、南無頓生菩提、南無阿彌陀佛々々、

曇り勝なる聲を勵まして稍暫らくは頭を擡げず、雄々しき處女の胸の內、無涙の涙、無聲の聲、百感無量にして肉動き毛髮震ひ出ん斗り、稍ありて涙を拭ひ鬢搔きあげ、凛然として仰け見たる眼元は凉しく頰悴れぬ。軈立たんとして墓の傍を卒と見やれば、秋の餘波の朝顏一もとあはれにも勢ひ付きて凋み着きたる花さへ持てり、

「アヽ夕を待たぬ果敢ない草花でも、人の命ほど脆ひものはない……此花だ三井寺の千日參りに買て來て母樣に上げた時、重い枕をおあげなされて『賤や有りがたう』ッて嬉しそうに莞爾成されたアノお顏『私は此蕾の花開くのを見られないと』仰つた時の悲しさ、アノ夕暮であつた、冷たい手で私の手をお握り成されたまゝ叔父樣を拜んで『唯此娘が不便で、何卒娘と思ふて……お賴み申します』ッて……アヽモウ思ふまい〱

忙然として勢力なき心を流石取亂さじと、帶搖上げて小褄整へ、やをら徐かに立上れば、草も涙の露落ちて非情ながらも感じけん、後に茂る萱原は風もあらぬに怪しきまでガサ付く音の聽えけり。踏出す足元屹と整へて斯る時にも油斷なく、迂濶の躰勢微塵も見せず、

「アヽ夜も更けたと見ゆる、月もどうやら雲間へ……

蟋蟀の聲折々絶えて方丈の方に響きゆく下駄の音幽かに聽えたり。處女は獨り考へぬ。

流の葦　是空子

第六回　源（上）

なさけを求むる人情の誠は旅ゆく人の間だに現われ、關わりなき人を冷淡に遇する無情の弱點は、路人言葉を交わす時に知らる。日暮れんとして尋ぬる家の標札ます〱暗らき頃ほひ、信切に其許を指し示さるゝほど嬉しきはなし。

コ、ダヨ、黒塀のあるあの家？

忙わしき夕方の仕度の手を暫し止め、鄭寧に會釋して行手を敎へ、傍へに余念なく遊び居たる七八才の童に命じて案内さす、母の心こそ床しけれ。實に尊とさは錦衣大軍の家にあらず、たとひ九尺二間のむさくろしき流し元に、麥一粒を惜さじとする貧しげの生涯なりとも、愛の情けあらん方こそ尊とさの宿る殿なるべけれ。

まことに有がたふよ、お母さんに宜しくッ、お禮を申して下さいよ。

責任を担へて無邪氣に走りゆく童を見送りつゝ、十八九の上品なる侍女は、門前にひとりごつやう、

必竟母の躾でせうがあの子の鄭寧なこと、あの婦人も、此邊りには珍らしい沈着温恵、去る人の成れの果か、イヤ〱そうでもあるまい、矢張り先生の敎へを聞く人でもあらうか。

古けれど嚴めしき門に近づき、標札をすかし見て、

天野等（アマノヒトシ）

と、口の中にて讀み試ろみ、入りて案内を請ふ。取次は十六計りの愛くるしき乙女なり。禮儀正しく手をつかえて見擧げ、思はずニコリとして、

ヲヤ、お安さん、大相、お久し振りで。

ハイ、御不沙汰をいたしまして、先生はお宅に居らつしやいますか。

既に度々終りて親しき間柄なるべし、其儘誘なわれて客間に通れば、此處は、疊廿ひら計りの廣き坐敷にて、眞中に最と大きなる圓卓を据え、周圍に椅子十五六脚を散らす、卓の上に快たよく茂りたる老松を鉢のまゝ安らかに据き、暫らくにして凋ぼむ一時の果敢なきものを用ひず。松の梢に天井より舞ひ下りたる巨大の吊ランプは、此の時すでに光を發つて、緑の葉の色を増し、室の隅々までちとの曖昧氣を遺すことを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なし。正面の床の間に全紙の大掛物あり。只だ「至誠」の二字を筆太に書付たる、勢ほひ奔馬の如く、墨色淋漓として滴たらん斗りあり。左の方、高く扁額を掛けたる表に、天道人情の四字を認ためたる、筆法亦た前のに似たれど此は少しく温厚の氣勝れたり、共に落款あらず、誰が筆にやあらん。額の下は間ひの伏間にて、彼方は主人の書齋なり。事あるとき、此伏間を開けば、双方合して疊五十ひら斗り、折々多くの人會して此に議事を開くとありとぞ。

安女は導びかれて、此の客間に入りぬ。取次の乙女、いと愛く々しくもてなす、而も威儀をくづさず。暫らく奥に入りたるが直ちに出で來り、言ふやう、

只今先生は少しさし迫つた事で、御相談中ですから、暫らくお待ち下さいまし、よ。

安女は嚴めしき質なれど、乙女の愛々しきに接しては常も自づと心ゆるむと云へり。實に此の乙女には、何人も近づき親しむとを得べし、左れど何人といへども之に忸るゝと能わざるべし。其心は何人をも信ずるに似たり、左れど何人といへども之に乘じて之を欺むくと能はざるべし。あゝ、鎧を着て敵の刄を防ぐは何ほ不可なり、初めより敵に刄を蔭さしむるには若かず。

安女は數多の憂ひを荷ひ、平素尤とも尊敬し奉つる此家の先生が敎へを請はんとて來りぬ。左れど、此の乙女に接すると十數分間にて、すでに憂ひの半ばを散らし、未だ問はざるに問大方は失せ、心地輕ろくなりて、何んとなく吾が來りし用務のさして重大にてあらざりしやう感じ初めぬ。左れば、一刻も早く先生に御めもじしてと思ひし心の、われと今は恥かしく、先生に見ゆると少しにても遲かれと、何ゆへぞ?、知らぬうち心に念じ居たり。

乙女に對して、多く語るにもあらず、そは口に語るとは必らずしも思ひを滿足せしめざればなり。心に思ふ最后の思ひは、口よりも寧しろ吾がおもゝちの方容易く言ひ現はせばなり。

安女は實に無言にて對せしなり。左れど其席冷やかに白けたるにもあらず、乙女の樣姿六かし氣に鬱しめるにもあらず、彼女はいよ〳〵笑まし氣に見ゆるなり。たま〳〵一つ二つ言ひ出す言の葉は、重くして低し。隣りの室、先生の高話を傾はすべきかと案ずればあり。

奥さまは、近ごろ、如何で居らつしやいます？

矢張り大抵お床に着いて入しやるのですよ。

此時始めて、乙女の花の如き顔ばせ少しく曇りたり。

奥さまも定めし御難儀で居らつしやいましやうが、先生も一層お世話しいとでせうネ。

ホンニ、其通りなんです。

乙女の眼とに初めて涙を見たり。嘗て此人の眼とに己が爲めに泣きたる涙を見ず、そは己が爲めに泣くは、深夜密床の上、たゞ神の知ろしめす時なればなり。

然し、あなたが、忠實にお助け遊ばしますから、先生も大層な御便利、奥さまも御安心で居らつしやいませう。

さうだとうれしいのです、併し出來ます丈けは御奉公いたします積りで。

矯飾の謙遜は一種の欺きなり、誠ある人は必らずしも他の推薦を辭まず、わが心亦た之を許せばなり。左れど彼は之に誇るとなし、その足らざる所を好く知ればなり。

此時、彼方の室にてリンの音す。乙女は靜かに辭い出で、彼方に到れば、

アヽお清さん、靜子が呼んで居ますやうです、御面倒ですが一寸と、行つて下さい。

ハイ。

と應らへて、離れ座敷の方に行く音きこゆ。安女は、先生の御聲を襖ごしに聞て、心をどり、精神發輝す、たとへば、天の風、さと一吹拂いたるか、神の水、一と流れ吾が躰を洗ひしが如し。持て來し憂ひ早や吹き散りぬ、流れ去りぬ。安女は端然として倚り、獨りさまぐの事を思慮す、思慮の發未だ調はざるとき、折々、隣りの室の談話を漏聞く、

もう此邊で放らないと、反つて自治の精神を損しはせぬかと思います、矢張り自然の教で悔改めさす方が好かと思ひます。

嘗て聞たるやうの人の聲なれど思出さず、次に、

ダガ、も一度叱いて見ましやう、どうも分らん筈はないのです、矢張僕等の至誠が足らないでせう。

アナヤ、彼御聲は先生の御教の聲あり。と思ふ動氣のみ暫し休まず、かなたの室しばし靜かなり。蓋し肅然たる神靈の沈思、主客の間だに行はるればなるべし。

雜録

「小公子」の序

若松しづ子

母と共に野外に逍遥する幼子が、幹の屈曲が尋常ならぬ一本の立木に指して、「かあさん、あの木は少さい時、誰かに踏まれたのですネイ、」と申たとか。考へて見升と、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈のものを屈曲せる程、無情なとは實に稀で御座り升。心なき人こそ、幼子を目し、生ひ立ちて人となるまでは眞に數の足らぬ無益の邪魔物の樣に申し升うが、幼子は世に生れたる其日より、否、其前父母がいつ〱にはと、待設ける時分から、はやおのづから天職を備へて居り升て、決して不完全な端た物では御座りません。されば私どもが濁世の蓮花、家庭の天使とも推すべき彼の幼子の天職は、いとも輕からぬとで御座り升。然るに世の風浪はこれを屈曲らせ、心なき同胞はあたら若木を踏みにぢりて、終に花は汚れ、天使は墮落するに至る景况を歎ぬ人はあり升まい。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高傑の德を思ひ起させるのは、神聖なるミッションを擔ふたる可愛の幼子に限るので、是に代つて其任を果すものは他に何も有ません。幼子の戲れ聲のせぬホームの空氣は、殊に冷たく、宛がら下宿屋の心地がし升。そして其家の夫婦は、相互に、又世の同胞に對して、多少寛優ならぬ處があるのは往々見る事です。是より推して、假に幼子の住まぬ世を想像いたし升れば、利慾に奔走する人心が、此上どの樣に罪深くなるとだらうかと、恐ろしい樣に思ひ升。扨又、ホームの教導者を先づ教へ導き、其淸素爛熳の容姿を發揮させ、其ミッションを全ふさせるのは、亦兩親始め其同胞の務めです。即はち世の中の關係は、總て相支へ相扶くる道理に基くので、例へば、私どもが生存ふて雨風を凌ぐ家は、矢張り私どもの手に成らねばならず、淺瀨を教ふる子供は、是非負ふて行ねばならぬと同じ道理で御座りませう。

私は深く幼子を愛し、其恩を思ふ者で、殊に共々に珍重す可き此客人を尙一層優待いたし度切に希望いたし升。夫故幼稚園、小學校などの設けは、私の心にとつていとも尊とく、悅ばしい者です。夫已ならず、近來小年文學の類がポツ〱世に見える樣になつて來升たが、これも眞心より感謝して居り升。そ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れ故、只今譯して此小さき本の前編を出し升のも、一つには、自分が幼子を愛するの愛を紀念し、聊か亦ホームの恩人に對する負債を償ふ端に致し度のみです。

賢子しるす

唐三藏西遊記を讀む

天知子

余幼時甚だ西遊記の談話を好み、稍々文字を知りたる頃益々之れを愛讀し殆んど其目錄をも暗んずるに至れり、此頃半日の閑を竊みて昔時を探り端なくも稚友の思ひ起りて西遊記一卷を繙く、蓋し其深意の骨髄を知ればなり。

幼時愛好せし點は其作話なる所にあり、彼の猿、豕、沙坊主の怪物が千變万化の神通力を以て多くの魔物と死力を鬪はす時の意表外なる愉快に魅せられたるなり。少年の頃之れを愛讀せし點は其意匠闊大にして變化の思想滾々と流れ出で且壯大勇健の筆鋒より成りたる寓言的文字なるを知ればなり。凡そ寓言なるものは古來著作家の甚だ難事とする所にして、筆力甚だ自在に且つ奔馬の勢ひなくんばあらず。余が莊子を愛好して支那文章上の勇將なりと信ずる所以は實に此所にあればなり。寓言の本旨は謬り易き事實を用ゆる事と、寓意は高尚なる價値あるものを用ゆる事と、壯快明活の筆鋒を以て一種の快樂の中に早く其實義を知れ得るよう爲す事とを尊ぶ。文章は莊子に及ぶべくも非れども其實義に至ては匹敵の價へあり。ガリヴア旅島記。胡蝶物語。カッスル、チプ、インドレンス。ハウス、チプ、フェーム等のものに至りては其實義の低き事比べ得べきものに非ず、況んや竹取物語、フェーリー、クインの類ひに於てをや、唯天路經歷記に至りては大いに高尚なる實義の點を同ふせり。

抑々三藏法師が天竺の經卷を得べしとの勅命を帶びたるは、人類が一の天職を負ふて此世に出て來りし所以を現はし。其三藏の人物を借て人類が柔弱的にして又義を好むの本體を現はし。幾多凶惡勇猛の魔王に出逢ふて或は屠られんとし或は失望に陷れられんとするの極際に至れば徒弟孫悟空に救はる此悟空は猿の怪物にして心猿即ち靈魂に喩ふ、而して其初め天より靈氣妙力を得たりと言ふの點に至りて其觀念甚だ高し。

人世到る所困苦を以て滿つ、いかに思想高く發達するも實際此困苦に當るに非ずば充分の練達覺束なきものなり、百難備

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

さに嘗め盡して未だ豫想せざりし妙感なりし事は、先賢の人士が屢々叫破せし所ならずや。三藏が幾多の困苦に殆んど堪えざる時僅かに天職ありとの觀念と心猿幷に天の光りに譬へたる多くの佛を見ては勇氣を勵まし、將に肉慾界に誘惑せられんとする時僅かに天の榮光に愕きては本善に返る所など、趣向縱横にして意匠甚だ高遠なり、西遊記は則ち全篇を以て一人類が練達の歴史なりとす。此等の心をもて讀みつゝ致へ往かば正に一經書と成るべし。今五岳の飜譯せしもの多くあれば家內讀本中の一に加へて甚だ面白く味ふを得べし。

今目錄中より味ふべき句を飜譯拔萃して示せば

靈根孕育して源流出で。心性修持して大道生ず。
邪魔正法を侵し。意馬、心猿を憶ふ。
心猿正しき所諸緣伏し。傍門を劈破して月明を見る。
情亂れ性從ふは愛慾に因り。神昏く心動きて魔頭に遇ふ。
二心(善惡)大に乾坤を攪し。一躰眞に寂滅を難修す。
陀羅を極救して禪性穩かに。汚穢を脫離して道心淸し。
盤絲洞に七情本に迷ふ。濯垢泉に八戒形を忘る。
心猿陰陽躰を鑽透り。魔主、大道眞に還歸す。
假に形骸を合て玉兎を擒へ。眞陰正に歸して靈元に會。
猿熟し馬馴て方に殼を脫し。功成り行滿て眞如を見る。

基督の道念小說と成りては天路經歷記と成り、佛家の道念が小說と成りては西遊記と成る。其道念の如何を措きて論ぜば壯大高遠の眼識と書中の人名詞等は西遊記遙かに上にありて存す。細評繁筆を恐る、唯讀者に紹介して其眼に任すのみ。

小說の要素

セークスピアを最醇なるものとして其集中に小說を作るの法を探れば要素と覺ゆる者左の如し、

一　小說を作るには話柄なかるべからず。

二　話中現實の世界に求め難き程の人物は宜しからざれども其境遇生活の極めて讀む人の感情を引くに足る可き人物なかる可らず。

三　話境を極むるには小大屈曲の想像を要し之を語るには波瀾老成なる熟練を求む。

四　話面には常に人生の現相を懸けて讀む人の之を感得し之を呼吸し忽ち話中に入て生息するの思あらしむべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

五　話素は皆人間の七情想像妄像信、文信及動靜及氣風等凡て人生の源泉より流れ出でざるべからず人事の達せざる處人情の及ばざる所は之を避く可きは勿論なれども各戲曲的の機頭に於ては之を轉ずるに非凡の接續詞を求む凡境の多きはよろしからざればなり。

六　話中の天地には抽象なる戲曲的幻想を要む小說に是なくんば平素の談話のみ劇に是なくんば兒童の戲事のみ音樂に是なくんば木石を擊つに異ならず彫刻に是なくんば無味の物形に同じ。

七　最後には文體也との名自天禀の才は永世に傳はる可きものにして文體宜しきを得ざる時は名人の帳に入り難き者あり。

●岡山孤兒院報告

一家、二棟。一宅地、貳段四畝。一田地、貳町五段。一畠、三段。一芝生地、貳段。一畝、參畝。一山林、六町。

代價金千八百八拾圓

右者去十月二日、播州赤穗郡矢野村の人小林將之助氏より寄附せらる、仝氏は傳道使にして博愛社々長たり、仝社の主義は傳道と實業的教育とにありて孤兒院の主義と適合すること少なからず、終に一大決心を以て全產を擲たるゝに至る、仝氏の寄附せられたる場所は、追々擴張して孤兒院附屬の實地農業學校となすの企望なり。

隨感

嚴肅にして微笑する人

しのぶ

或人、基督を評して、彼は生涯笑ひたることなけんと云ふに、又の人之を否みて云へらく、もし彼笑ふことなかりせば、幼兒等何をもて之を慕ふことを爲しけんと。雙の說ともに一理あり、互ひに半面の解釋を立つ。

それ、今の人の笑と云ふものは、眞の笑にはあらざるなり。譬へば、國家危ふき時、白痴の戯れ笑ふとの如く、嚴然たる天地の偉觀に對して、懷疑の徒の冷々として嘲けり笑ふとの如く、掃ふ可らざる心中の憂悔ある人、そを酒に消し煙草に散らせて、空しく高笑ひするとの如き、皆是れ眞の笑にはあらざる也。此意義に於ては、基督は嘗て笑ひしとあらず。

今の人の嚴肅と云ふものは、眞の嚴肅にはあらざる也。譬へば、起居に角立たせて肩を屹然として聳やかし、言語を四角にして、音調を宣告文讀むが如くし、わざと懇ごろにすることを避けて、遠くより之に會釋し、謹面寡默は威光の要素にして、相近かざる時にのみ尊嚴はあるものと心得んほどの人は、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

未だ眞の嚴肅なるものを知らざるなり。かゝる意義に於ては、基督は甞て嚴肅にてあらざりき、反りて幼兒の狎れ親しむほどに常に笑ひてこそ坐はしけめ。

夫れ、森羅万象悉とく榮光を顯はし、六合宇宙皆な神の殿なりと信ずるものにあらずば、何を以てか心中肅然自づからにして嚴そかなるを得ん。仰いで天地を觀、日月の千古に偉麗なるを察し、首べを俯して心中道念の慾に磨せず情に亡びざる所以を考へ來れば、誰か襟を正ふし、

何ものゝおはしますかは知らねども
かたじけなさに淚こぼるる

と吟ぜざるものあるべき。人こゝに至りて、初めて嚴肅なることを得べし。

既に嚴肅の人にして初めて眞とに笑ふことを得べきなり。道念われを慰さめて、汝ぢ愛すべき忠なる人よと微かに心の奥にさゝやき、天の雲此より彼に言傳へて、あゝ彼の義しき人を見よと響かんとき、人は夫れ何如に樂しき哉、心道に合ふときは、躰軀安然として泰く、言語迫切せず、自づから洋々如たり、花の春に咲ひ、大海の風なきに和らげるが如し、此に於てか性靈打ほゝえみ、温顔之を示して、相貌平らけく安し、幼兒の之を親がふや嬉々として、樂しみ倚らざるとなし。人こゝに至りて、初めて眞の笑あり。

此故に、眞に嚴肅なる人にして初めて眞とに笑ふとを得べし、笑つて嚴肅ならざる人の笑ひは、愚人の空に笑ひ、藝妓の風に笑ふに類す。然らずんば、道念の刺激を忘れんとて、敢て狂ひ笑ふものなり、其笑ふや苦み泣くに異ならず、何をもてか笑ふと云はん。嚴肅の故に笑はざる人の嚴そかなるは、僞善者の外を飾り、パリサイの式儀にのみ拘らふに等し。然らずば、膽力の輕きを漸やくにして整へ、精神の乏しきを辛くも繼ぎ、外面の衣を以て僅かに内心の空ろなるを被ひ隱すのみ、何をもてか嚴然たり肅然たりと云はん。

されば、君子は、世人の笑ふが如く笑ふとなし、又世人が嚴肅なるが如く嚴肅なるとなし。此意義に於ては余は言はん、基督は甞て笑ひしとあらずと、又云はん基督は幼兒に慕はるゝほどに常にほゝえみ居たまへりと。

○人世の瑣事　　もみぢ

人世は瑣々たる事より成ると。此語を聞くと久し。年長け人

情を知るにあらずんば、能く此語の味はひを知らざるなり。蓋し瑣々たる事人世を成すにあらず、はじめ瑣々たりと認ためたることの至つて大なることを覺るに至るものなり。年少ふして世に熟せざるとき、万事は理窟のみにて成ると思へり、然り万事は理窟の外に存せざるなり、されど其の理窟と思へりし者はたゞ眞理の一部分にてありき。夫れ、人情は大ひなる道理なり、此道理に適せずして能く何事をか成さん。一眇の黑點あり、之を望み見れば極めて小さし、近づいて后ち其巨大なる高峯たりしことを知りぬ。人少ふして瑣々たりと見しことの后に極めて大關係を及ぼすは、當時其事の質にいと小さきにはあらず、既に巨大の事となりたるなり。人その義を誤まるとなかれ。

前號元良君論文中正誤

三〇六頁下段十三行　吹嘘は風潮

三〇九頁下段五行　賤は賤め

三一一頁上段二行　佛教の上儒教を脫す

批評

○小說、春迺家漫筆

撫象子

坪内逍遙氏の作にて、元と讀賣新聞紙上に掲載したるものなり、今ま春陽堂之を集めて新版す。壹圓紙幣の履歷ばなし、梓神子の二つは、世を嘲けるの小說なり。そかし、政界撥話の二つは、隨筆類の反評なり。

壹圓紙幣の履歷ばなしは、一圓紙幣の述る所ろに假へて、學校教師、撰擧候補者、書記官、女學生などのアラを穿ちたるもの、梓神子は、馬琴、西鶴、近松門左衛門等の幽靈に事よせて、去年來の文學界の流行を嘲けりたるものなり。

一氣呵成の文章、華の如き才氣を溢らせ、句々妙に肉を穿つ。「細君」に於ては一變を示したる文躰今はいよ〳〵熟して殆んど特味を備ふるに至りぬ。逍遙子が小說は、大抵批評的なるが、此の二つの作は一層其氣味なり、寧しろ小說と稱えざる方妥當と思はるゝほどなり。而して其批評は大方人の弱點を穿つにあり、之も亦た一つの用あれど、願はくは天の子を一概に俗殺し了すると勿れと祈る。此故に、一圓紙幣半ばにし

て飛び失せ、天女の如き情の美しき小婦、世の人の目には無學者あれど其日記を見れば鴻儒の如しと預告せる人々の事を語り傳へざるぞ何如にも殘念なる。願ふに、妹と脊鏡と細君とは子が傑作なりき、子が退隱以來日月少なきにあらず、冀はくは復たび大鳴長叫せよ。

○うめぞの　うた子

新作十二番の内として、すがはらのみちしげと署し、香りゆかしげに薫して打出でたる、姿形言はん方なくゆかし。詮ずる所ろ、才發けて物心容赦なき女學生を罵らんとか、又は浮れ男は遂に好き縁を結びがたしと訓へんとか、昔し風にして今時めける、一種異樣の作りものなり。小說と云ひて差支へなからんが、左りとて別に人情の見るべきものもあらず、蓋し世を敎へんとの信切に出しものなるべし。

○女子消息文かきぶり

○かな習字敎育勅語帖

二つともに小野鵞堂氏の書にして、例の如く吉川半七方より出版す。前なるは、疾に出でたるもの丶第二卷にて、末には卷帋に認ためたる實地の手風を示し、用意いよ〱徹やかなり。書風は自づから一家を爲し、麗らかにして伸びたる狀、春の花の如し。彼此と言ふべきならねど、今一きわ、雄勁と云ふ心地を存したらんにはと思はる。

○美術世界卷十一

春陽堂の版にて、省亭主人の編輯に成る。此卷に至りて進步一大段を示し、美麗驚ろく許りなり。取分け、應擧の畫、左甚五が精神恍惚鑿の落つるを覺へざるの樣、節を拍て歎賞せしむ。又、米仙氏が木村長門守の馬は、尻少しく小く、西洋馬具を著けたる樣なり、其比ろ、尻がい、胸がいは未だ用ひざりしと覺へたり。

○貧しき人は胃あるに食なし、富める人は食あるに胃なし、こゝに於て一は食を得んとして勞動し、一は胃を得んとして運動す。

○孵り易くして成熟し難きもの

代言人、女敎師、傳道者、鷄の雛

○汝ち家を身の飾とする勿れ、自ら家の飾となれ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

史傳

楫取素彦氏夫人久子の傳

吉田松陰先生の妹

古谷たみ子

久子は萩山口の藩臣杉常道氏の第二女にして吉田松陰先生の妹なり性孝悌にしてよく婦道を守りまた其心ざま雄々しく事に臨んで決斷ある事丈夫の如し且つ深く眞宗の法義を信じ常に人を佛道に歸せしむるを以て無上の快樂とせり十六歳にして楫取素彦氏に嫁し後男子二人を生む素彦氏主命によりて江戸詰となりし時久子は留守を守りて二兒を教育し備に艱難辛苦を嘗む此頃は世の中物騷敷藩中の議論も尊王佐幕の二派に分れ鎬を削りて相爭ひしに素彦氏は尊王黨の一人なれば佐幕黨の讒言により元治元年の冬遂に入牢の身となりぬ然るに久子は甲斐々々しくも風雪を侵して毎夜深更に牢屋に到り獄卒に賴て飮食物等を送り少しも屈する氣色なく朝夕二人の小兒に向ひ武士の心得を教訓し只管良人の出牢を待ちしとぞ慶應二年の夏藩府は毛利侯を廣島に召換せしに毛利侯は病と稱して往かず家老宍戸氏を代理とし素彦氏を其副役として廣島に遣しけるを藩府は途に二人を囚へて還さず此報藩中に達するや騷き騒がざるものなけれども久子のみは豫てかくあるべしと覺悟せし事なれば泰然として常に異ならず此事君侯に聞へければ君にも深く感心ありて使を以て黄金若干を賜はり又夫人よりも種々の物を下されしとぞ明治元年素彦氏朝廷に徵され爾來縣制度局判事に任ぜらる後辭職して再び山口を去て大津郡二條久保村に居る久子村に在りて多くの田畠を開拓せしめ村民の稼穡業にして遊びある若者らを諭し各々身分に就かしむされど愚民の習とて無根の事を信じやゝもすれば穩やかならぬこと多かりしかば久子はかゝる者を諭して善心になさんには教法に如く者無かるべしとて小き堂宇を村内に建立し毎月二回づゝ闔村の男女を集め僧侶を聘して法筵を開き眞俗二諦の教理を說されけるに村民大に其德に服き其法筵は永く此村の定式となし今に廢する事なしと云ふその外親戚知己の青年を勵まして學問をなさしめ其貧窮にして學に就くことを得ざる者には金錢を貸與へ師を求めしむされば其恩庇によりて立身する者甚多かりしとぞ明治四年素彦氏足柄縣令に任じ明治七年の夏熊谷縣令に轉任し久子も同く其地に移り住せしが熊谷縣は上州武州の二國に跨り元來佛法少き地故風俗強猾にして往々地方廳の法度を犯す者多ければ久子は先縣官等を勸めて佛法を聽かしめそれより追々下民に法義を弘め牧民の助けとなしぬ同六年熊谷縣廳を上州前橋に移し群馬縣と改稱す久子又前橋に移り益々佛法興隆に力を盡し眞宗本願寺より小野島行薫氏布教のために出張せしに久子は素彦氏と共に斡て之を贊助し千辛萬苦の後漸く盛大なる酬恩社教會を設立するに至れり酬恩とは四恩に報酬するの義にして其規則に曰く

父母生育恩
　祖先の遺體を重んじ榮を子孫に傳ふべき事
　家職を勉勵し自己の本分を誤るべからざる事
皇上臨御の恩
　維新の改旨を奉し文化の隆盛を扶くべき事
　人民の義務に服し國用を忘るべからざる事
大悲攝化の恩
　無常の世に處し常住の妄執を離るべき事
　無邊の光益を仰ぎ攝化を妨ぐべからざる事
人民交際の恩
　鰥寡孤獨を憐れみ貧窮疾病を救助すべき事
　郷黨の交を厚ふし信義を欠くべからざる事

是實に群馬縣下眞宗布教の基礎にして今や赤城山の聳ふる所利根川の流るゝ所大悲攝化の光明赫灼たるを見るに至れるは久子の力多に居ると云ふ同十年四月久子風症にかゝり同十三年東京の邸に移られしが十一月に至り胸膜炎を併發しぬ素彦氏も此頃まで東京に居られしが年末にて御用も多ければとて群馬縣に歸らるゝ時久子は是ぞ一生の永訣なりと心の中には思へども良人の公務を妨げんことを恐れ更に其の色をだにも見せざりき其後病愈重りければ子息等は素彦氏に其由を告げんと云ふに久子は強く頭を振り今日父上を迎へ奉らんとならば何とて過日病苦を隱して別れたてまつらんや妾が死生は私事なり年末の御用は公務なり私事のために公務を妨げて何にせんとて更に聞き入れざりしとぞさて翌年一月十三日午前七時盥ひ嗽き髪梳り親戚并に居り合せたる知己人々に厚く介抱の禮を述べ端坐合掌して目出度往生本懷を遂げられたり時に享年四十三歳なり諡して心月院貞松玉映大姉と云ふ二子の中長は家を嗣ぎ次は出で久坂氏を繼げりと聞か云ふ。

時事

○自由黨大會

曾て稀なる程の靜粛なる自由黨の大會ありき、總理の勞思ふべし、代議士代議員の大事を思ふ所祝すべき也。

○三對

板垣總理は云く、代議士諸君は議員兼壯士位の考にて居られたし、余は枳の總理なり、何時にても蜜柑の總理を繼木せらるべしと。大井憲太郎氏は云く、言ひたき事を忍んで此大會に温和しくせしは代議士諸君に待つ所大なれば也と。星亨氏は云く、日本人は佛國人に似たり、自由黨員は佛人中の正佛人の如し、平時は好く喧嘩をすれども直ちに和すと。

○支那事件

例の如く因循として列國を疲らせ、其いよ／＼切迫するを利用して、亂雜せる内閣の意見を一定せんとす、支那政府の常手段にして亦致方なき運命なり。此際我外務大臣が多少の仲裁を爲し、妙機を利して我國權を擴張すべしと云ふの說、面白しと云へども未だ容易に手出しす可らず、策の妙ならざるに非ず、斷じて行ふものゝなきことゝ、行つて中途引けを取らざる覺悟の乏しきことを何如にせん。

○東華學校

宣教師と日本人と協同して敎育に從事するに當り、多少の困難あるは當然の事なり。左れど其困難を多しと云ふ可らず。吾人は其寧ろ易々たるを感ず、只だ双方が當然の所ろに要求を止めんことを冀ふのみ。仙臺東華學校に於ける宣敎師惣辭職の報を聞き、甚たく殘り惜しく思ふ。

○女學復興

到る處ろ女學復興の報あり、特に各地方に於て盛んなりとす、たゞ復た洋熱に狂奔することなく、左りとて餘りの舊僻に偏することなく、眞實の中正に反り來らんことを希ふ。

○本年の議會

經濟雜誌の預言表果して是なるか否やを知らず。然れども、或人は曰へらく、貴族院は今年は靜かなるべし、衆議院も亦一層靜かならんと、而して其靜かなるは政府に取りて大ひに懼るべきものあるなり。大砲の響く時は安心なり、草木も眠るときこそ恐ろしけれと、或大將軍は言ひぬ。

問答

可愛子

●問。附錄女學はもう出ませぬか〇(西京、無學生)〇。●答都合によりまして出すとを止めました。

●問。女學雜誌社說の婚姻論は、何人の筆でありますか、該論はもう終結になりましたか。(筑後淸風女史)。●答。巖本兄の筆です、女學雜誌の社說は、ドレでも皆んな巖本兄の手に成ります、婚姻論はマダ終局ではありません、いづれ續けて出します。

●問。文章を習ひますに、讀んで爲めになる雜誌一二種を敎へて下さい。(上毛、綠雲小史)。●答。早稻田文學と文則の二雜誌でせう。

女報

可愛子編

●皇太后宮陛下の御懷舊　皇太后宮陛下が去る十五日淸水寺へ御立寄りの節本堂内陣より舞臺に出御ありて揭額に御眼を配らせ玉ひ、彼處此處と御巡覽在らせらるゆゑ、供奉の女官が御心の程を伺ひ奉りしに、陛下は笑ませ玉ひ、未だ入內せざりし時九條家より屢々當觀世音へ參詣し、嘗て一面の額を奉納せし事あり、今思ひ出しまゝ其額面を搜せど多くの年月を經たる故か分らずとの令旨を下されたるよしに付、同寺に於ては長き事なれば其額を永遠に保存せんと目下取調中のよし。

●皇太后陛下大阪奈良兵庫への行啓　陛下には京都より御還御の節、大阪及び奈良、兵庫へも行啓せらるべき旨、去る十五日仰出されたり。

●松方伯酒を絕つ　總理大臣松方伯には近來全く酒を絕てりと、吾人は朝野の政治家が同じく酒を絕ちて、嚴正謹愼、以て事をなさんとを望むなり。

●明治女學校の武道科　に於ては、本學期より他校の女學生諸子をして隨意入學生を許すとゝはせられぬ、月謝は柔術薙刀一科各三十錢づゝ、二科兼修五十錢。

●外國婦人の入學者　外國婦人にして、神田一ッ橋の共立女子職業學校に入學せる者、英國人五名、佛蘭西人一名、葡萄牙人一名、都合七名にして、或は圖畵、或は刺繡、或は造花、或は和服裁縫等を修業し居れりとぞ。

●女學生の製品陳列　共立女子職業學校に於ては來る卅一日を以て同校生徒の製作品を陳列し公衆の觀覽に供し、且つ需めに應じて之を販賣する由。

●代議士の娼待合茶屋を開く　大阪府選出の代議士粟谷品三氏の長女たに子の名義にて京橋區新富町七丁目(樂屋新道)に待合茶屋開業の義を出願せし由、唯々大怪事。

●醜業者密行の新手段　近來醜業者渡航の取締頗る嚴重となりしより、彼等も種々新工風を案出するとなるが、此頃は豫て無賴の外人と共謀して貧家の婦女を誘惑し、年期給金等を定めて先づ一二ヶ月間は洋人の妾となし置き、軈て機會を窺ひ洋妾の名義を以て渡航せしめんとを計畫する者ありと云ふ、惡むべきとにこそ。

●五穀豐饒して下女少なし　本年三四月の頃は官政改革の影響下女にまで及び、下女は無給金雇ひ先を詮索する程なりしが、近ごろ各地方豐年の景氣より、半年前と變り一向下女となるもの乏しく、平常に一圓位の給金なるを一圓五十錢與ふるも容易に素姓の正きものは雇はれざる由。

●高原れみ子長逝す　熱心熟練なる產婆、高原みれ子は、去る十六日朝コレラ病にて逝けり、吾人は深く之を惜む。

●慈善會　東京慈惠醫院にては、來る十一月十二、十三、十四の三日間鹿鳴館に於て慈善會を開く。

●又慈善會　毛利公爵夫人の會頭なる大日本婦人敎育會にては、貧民女子小學校創立の資に供する爲め、本月三十一日虎ノ門內東京女學館に於て慈善會を開かるるよし。

●慈善音樂會　田村直臣氏が發起にて、本日午後二時より木挽町厚生館に於て自營館擴張費募集の大音樂會を催す、自營館とは貧窮就學の道なき書生をして每日僅少の勞働を爲さしめ、其餘暇を以て勉學せしむる慈善の館なり。

●日本人布哇公使の聟となる　本邦駐劄布哇國公使アールウイン氏は、今度日本橋區芳町の質屋(腹屋)の二男某を其令孃の聟養子に貰ひ受けしが、公使の夫人も日本人にて未だ本國布哇の風土を知らず、新夫婦は固よりの事故、來春早々右の人々を伴ひ一應本國へ立ち歸るよし。

●美人の番頭　昨今神田邊に美人を番頭となす事流行し淡路町より九段坂下迄に百五軒ありと云(都新聞)。

●外國出稼婦女取締條例に就て　外務省の調査に係る同條例は、昨年帝國議會に提出し尋て撤回したるが、本年の議會には提出せざる筈なりと云ふ、其譯は該條例は、法律として條項を設くるも到底取締の立つべき見込なし、例へば一婦女あり保姆となり或國に出稼せんと申立んに、否な僞ならん汝は密賣婬を爲すの目的なるべしとて之を抑壓せんか、人身の自由を妨ぐるに至る、畢竟是等は法律を以て裁制すべきものにあらず、寧ろ行政處分に一任し取締を立つべきものなりとの議出で、種々議論の末終に該條例は廢棄するとゝなれりといふ。

●婦人共立育兒會　は目下會員千有餘名の多きに達せり。

●婦人矜恤會　は去る十三日午後年例によりて第六回總集會を神田小川町に開き、佐藤司祭を招請して感謝祈禱を執行したり。(正敎新報)。

●長崎婦人會　五港の一にして、然も風俗頹敗、醜業婦女の多きを慨き、上川きく子、井崎ゆき子、小林ちか子、安部井たつ子四氏發起となり、長崎婦人會を起せり、長崎縣下婦人敎育の普及を圖り特に其摸樣を養成せんとて、事務所は樋屋町十七番地にあり、每月第三日曜を以て事務所を開き、女子に必要なる談話をな

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

し、遠からず雜誌をも發行せんとす。

●長崎活水女學校　日本女子を教育する爲めに設立せり、亞米利加合衆國美以美教會の監理する處とす、校長はエリザベス、ラッセル孃なりしも、此頃日本人に囑托せられたり、外に十餘名の教師あり、普通學科、神學科、音樂科等あり、現今寄宿生七十餘名、通學生の中には英語專修者多し。

●長崎梅ヶ崎女學校　學科は活水女學校と同じ、豫科三年、本科四年にして卒業す、特別科として音樂、油畫等あり、校長は此頃日本人に囑托せり、生徒は現今四十名、當校は明治二十一年の設立に係る。

●長崎幼稚園　長崎市には幼稚園二あり、一は師範學校の附屬にして、一は勝山女學校の附屬なり、師範學校の分は入園の幼兒四十餘人、主任保姆には女子高等師範學校卒業の小林ちか子氏一名、實際の作業は女子師範の生徒、實習の爲め之を擔當せり、勝山女學校の分は入園の兒目下在籍百六十名許、保姆には師範學校女子部卒業生二名と、助手一名なり。

●熊本十美人　熊本の忠愛新報は、頃日紙上に於て熊本十美人の指名投票を募集せりと、遊惰輕薄の世、如何に讀者の歡心を釣らん爲とはいへ、天眞清麗の女子を、容貌によりて等級を附し、公然新聞紙上に掲げんとす、何等の無禮ぞ、はた何等の無恥ぞ。

●香川縣下の進德會役員非評議員會　は去る十四日高松市天神大通寺内なる同會事務所に開き進德女學校開業の事に付き、諸般の協議を遂げたる由。

●北海道札幌の風俗　札幌は繁盛の地なれども、隨て種々の惡風行はれ、區内に二十餘の妓樓あり、特に甚しきは三四町の間、狸小路とて、小飲食店數を并べ、各卑賤なる婦女を畜へ公然に營業す、醜も亦極れり、日本基督教の傳道者は此間に立ちて熱心に働き居れり、講義所には、日曜日に説教、水曜日に祈禱會あり、婦人會、編物會、何れも盛なる由。

●群馬縣下女子の授業生　同縣下にては、女子にして小學校の授業生を務むるもの二十六人ありといふ。

●靜岡女學校教師　ハーグレーブ孃は、此度北越金澤地方に働くこととなりぬ。

●相州戸塚基督教講義所　は平日裁縫編物及び英學の教授所に使用し近隣の婦女をあつめて業を授くると云ふ。

●山梨英和學校の位置　同校は甲府百石町にあり、四方の山、畑等を望む、自然の景致は眸の中にあり、大に心身を健かならしむべし。

●大阪の婦人友愛會　は今度都合により、同市東區北濱五丁目十五番地に移轉せり。

●女學生に同盟す　名古屋の清流學校と、廣嶋の英和女學校と、長崎の梅香崎女學校は、今度我女學生に同盟せり、女學生の紙上更に燦爛の文花を添へなん。

●婦人學習會　京都市に開かれたる同會は、尋常小學を卒業し、夫れより是れまでならば父母の手許にありて縫物等を學び割烹のとを覺へ直ちに嫁入りせんとするが如き女子を集め、家事を整理するに必要なる知識を與ふる目的を以て、家政、理科、讀書、算術等を教授す、時に有益の談話もあり、教室は當分春日尋常小學校にて、尋常師範學校の教師公餘を以て教授の勞をとると云ふ。

●頭髮三校＝京都の女學校　同志社女學校生徒の頭髮は束髮多くして而かも光澤なきが多く、土手町の女學校の生徒は束髮なれども幾分の光澤あり、御幸町の私立女學校の生徒は頭髮に梳油多く龍腦の香高し大抵此髮にて生徒の風氣も分るべしと、中外電報の記者は得意に記せり。

●女子教育を盛んにせんとにはあらざるべし　茨城縣知事石井氏には教育を盛んにせん爲めに、本縣尋常師範學校内に女子部を設けんと、夫れ〴〵計畫中なりしに早くも教育社會の一問題となりて之が得失を口にするもの多きに至りしが、就中贊成者は寡くして反對者は多し、或る人の如きは、女子教育を盛んにせん爲めに女子部を師範學校中に設けんと云ふも、同校は教育技手を造くる所にして、女子教育を盛んにせんには不適當なるにあらざらん乎、若し女子教育を盛にせんとならば、尋常中學校内に女子部を設くるか、高等小學卒業以上の女子を教授する一種の學校を設くるに如かずと云ひ居る由と、茨城日報に見ゆ。

●近江婦人慈善會昭德碑竣工式　先般來大津三井寺長等山に於て建設中なりし昭德紀念碑は工事落成せしを以て來る廿五日午前九時より建碑式を執行する由。

●對馬の製糸　同國嚴原に在る製糸場にては、目下三十名の工女を使役して頻りに製糸に從事し居る由なるが、本年は凡そ四十貫内外を收得する筈なりと云ふ、尤も同處は本月下旬には閉場する都合なる由。

●廣嶋英和女學校の燒失　去十五日夜半出火し教場寄宿舍とも悉く烏有に歸せしが、幸に役員生徒はいづれも無事なりし由。

●熊本私立中學濟々黌女子科　は生徒百二十三人、卒業生は七人ありといふ。

●熊本縣に於ける各種學校の女生徒　は二百七十七人あり、前に比すれば百十人を增せりと云。

●幼兒保育場　は熊本縣下に其數三個あり、保姆は九人、幼兒の數は男九十二人、女六十九人なりといふ。

●布哇皇儲御葬儀　布哇皇儲ドヨンドミニス親王は、去月肺炎に罹りて薨去せられ、同月六日宮中に於て、葬儀を執行せられ、式畢りて皇陵内故カラカヴア皇帝の墓側に奉葬せられたりといふ。

●西班牙衛生會の懸賞問題　西班牙の衛生會は、下の二問を發せり、賞金各二百五十ペセタスなり(一)學校衛生及び男女生徒の關係(二)衛生學の範圍内一問題。

●女手品師天竺にあり　手品師吞風亭蝶之助は去年外國へ出稼したるを聞きしのみ、何の音沙汰なかりしが、此程同人の師匠蝶柳齋の許へ同人より送り越せし手紙に、印度よりとありて本年中には是非とも歸國するとの趣きを書き籠めありしと。

●女教師洗禮を授く　メソデスト教會婦人傳道部にては此頃開れたる總會に於て印度なるある地方の風俗に隨ひ女子にして受洗を欲する者に男子此禮を行ふを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●イダ、ヘウィット嬢 は年齢廿歳許の美親子にして才學ある若き婦人なるが實に女性にして合衆國汽車機關の技師たるは嬢唯一人なり、嬢は毎日カイローさカナツさの間を運轉する汽關車を扱ふ、天性機械術を好み、嬢が父の此鐵道に關係するに至りてよりは屢常に職工場に行て實地に研究し又は工作し遂に今日は此技師さなれりさいふ。

●日本女學生 北米合衆國婦人日報は、嘗て横濱共立女學校に催ふしたる同窓會の事を記して曰く一致婦人傳道會社が日本國に開きたる女學校にて最近廿年間に出したる卒業生は此頃一所に會し互に英語音樂對話等をなし樂しき交話會を催したりさいふ此かる集會は日本婦女子間初めての催さも云はるべく而して當日集會せる教師等も是實に日本人がいや增したる獨立心并に品位を示すものなりさ互に滿足せりさ云ふ。

●エール大學傳信校の創立者 ノッチキス夫人は二十七万五千圓弗の增額さ并に七十五エークルの地所增加さを同校の爲めに世上に要求せり。

●根本正氏、 我が有益なる日本寄信者なる同氏はアライス氏が「米國共和政治」にイリノイス州は地方分權制度の好例を示すものなりさ記せるによりて、自治制即地方分權制、郡案、州郡村の課税及總て他の一進光を與ふべき點等に就き知事フアイフエル氏に寄書せられたりさ云ふ。(ユニチン、シグナル)

●レビット夫人 は現今マサチユセツト州ボストン府ビーパデー團員キッダー氏方に寄留せらる、夫人は今秋特に多忙の如し。夫のみならず來年五月より十月迄の間の演説に就き既に徴約さへあり。九月にはペンシルバニア、紐育、ミ子ソタ、ダコタ、子ブリスカ等に遊説し、最終の三分及びニユーハンプシアー、マサチユセツツ、カニチカツト、ロードアイランド、メリーランド諸州の州會にも出席せらるべしさ云ふ。

●英國女王 英國ロンドンの新報に付く陛下には近時は身体あまり勝れなく醫師等も御食用料など從前より一層手を盡し摘み上るさ云ふ、謂ひ奉らする人々も御齡さいひよほど御衰弱被遊し樣見上奉るさぞ聞ゆ。

●婦人侍醫 英國皇女クリスチアン内親王殿下には新たに婦人醫師ドクトルシエリア、ペイトリンド卜云ふ婦人を侍醫さなされたりし。

●露西亞女醫學校 露國國内の文部省は女醫某氏の切なる再三の請願に依りて、セントピータースボルグにて婦人醫學校を設けんさの案を提出せり而して入學志願者は年齢廿年より廿五年の間さ限られ入學試驗には必らず拉丁語言語學を要する等の條件ありさ云ふ。

●日耳曼國の世況益々進歩す キールなる公立古物展覽會の事務員は一千八百七十三年以來同會主監者たりきアワフエタル、ハンデルマン氏に繼ぎ同主管者さして彼の有名なるフラウライン、ジョハナ、メストルフ女史を選擧せり、吾人は此擧を祝すると共に文明國中此國のみは未だ婦女をして大學に學ぶを許可しあらざるの一事記憶さざる可らず、されば女史が此度の一事は實に後日同國婦人進歩の一兆さし特に女子の爲め大學の門を開放さるゝの前さして欣び祝すべき事なりけり。

品名	十二月廿日
白米(一石ニ付) 一等米	一〇四
二等米	一〇六
三等米	一〇八
四等米	一一三
五等米	一一九
正米(一石ニ付) 越中米	一四九
秋田米	一五五
庄内米	一四七
肥前米	一四五
一志米	一四〇
雜穀(一石ニ付) 本貫大麥	二四〇
上州小麥	一九〇
竹林麥	二一〇
梅澤大豆	二一八
青柳大豆	二〇八
吟小豆	一七五
白胡麻	一三五
黒胡麻	一七〇
蠟(一斤ニ付) 赤穂	二九〇
大蠟	三〇〇
木蠟	五一〇
新蠟	五五〇
醤油(一樽ニ付) 東上	七六
椽上	八[illegible]
上物	八五
中物	[illegible]
並物	[illegible]
味噌(一貫ニ付) 地上白	七〇〇
同上赤	七〇〇
同紅赤	一、三〇〇

品名	十二月廿日
眞綿(一貫ニ付) 上々入金	一二、〇〇
上入金	一一五、〇〇
並入金	一一〇、〇〇
松入金	一〇六、〇〇
竹入金	一〇二、〇〇
梅入金	九六、〇〇
濱縮緬(一反ニ付) 大巾上馴	四、九〇
小巾百廿目立	五、四〇
同並物	四、八〇
六丈本紅	
五十目立	五、五〇
糸吉生絹(一反ニ付) 六十目附	二五、〇〇
八十目附	二七、〇〇
九十目附	二七、〇〇
百目附	二七、〇〇
白木綿(一反ニ付) 玉鶴	三四
綾鶴	三七五
日の出鶴	四〇五
若櫛	三一〇
宿関	三四五
兒玉	三七五
送薬	三九〇
織物類(一反ニ付) 伊勢崎糸好	七、五〇
同珍柄	八、五〇
本糸洗紺	一三、〇〇
米澤節糸織	六、〇〇
同琉球地	二、七〇
結城縞	八五
改良縞	七〇
糸入縞	九〇
物産縮	七三

品名	十二月廿日
乾海苔(百枚ニ付)	價 七〇 一、〇五 二三 一、〇五 三五 一、〇五 二二 八〇 四五 六五 五〇 六五
洲崎	
大森	
深川村	
大師田	
上總	
仙臺	
鰹節(十貫目ニ付) 土佐上	二四、〇〇
薩摩大	二一、〇〇
伊豆上	二五、〇〇
城の腰	二一、〇〇
房總上	二〇、〇〇
銚子上	一九、〇〇
水戸磐城上	一八、〇〇
南部仙台上	一五、〇〇
炭(一俵ニ付) 伊豆上	四五〇
同次物	五六〇
同並物	六五〇
淺上	四〇〇
同次	四五〇
新宮九備上	二四〇
同角備上	二八〇
水油(一樽ニ付) 地水	六、三〇
胡麻油	八、七〇
荏油	九、五〇
桐油	六、〇〇
綿油	七、三〇
坂水	七、三二
石油(一箱ニ付) チヤスター	一、五五
デボース	一、五六
ホーキ	一、五六
ロンヤ	一、五四

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

大日本婦人教育會附屬女學校設立趣意

女子教育の月に歳に旺盛に赴むき其學校の陸續として所々に設置あるは明治盛代の一美事にして女子たるもの、深く欣喜すへき世態なり然れども此種の學校は富饒の家の女子に非されば入校して其業を修むることは能はざるの勢あるが故に中等以下の家の女子にしては篤志のものと雖も夥多の學資を費すことは其家計上の許さゞる所にして終身其入學は企て及ふへからず況や此他の意志を學業に注がさるものに於ては空しく其妙齢を過ごし之が爲めに女子の風儀を壞頽し往々言ふに忍ひさるの境遇に沈淪するものなしとせず斯く文運日進の時勢と背馳するの光景を取て今日に現出せしむるは女子教育に熱心する人々の豫想外にありて畢竟學資の夥多なるが爲めに就學することの出來さるより生したる結果と謂はさるへからず誠に遺感の至りならずや吾が大日本教育會は夙に此等の女子の爲めに學校を設け簡易の學業と必要の女紅とを教授し務めて學資の辨しがたきものを救助するを以て目的とし各其身を立て婦道を守らしむるの捷徑を指示せんとの志望を起せり而るに之に着手せんと欲するも僅々たる資費にしては能く其規模を立つることを得さるが故に逡巡今日に及へりと雖も固より時機なるものは默々手を拱きて其來るを待へきものに非されは茲に附屬學校の規則案を草し其設立資金の補助を仰がんとす希くは此擧を贊成ありて多少に拘はらず義捐せられんことを

今般本文ノ旨趣ヲ以テ本會附屬女學校ヲ設立セント欲ス而ルニ本會々員ノ義捐金ノミニテハ何分其目的ヲ達スルコト能ハザルノ憾アルニヨリ茲ニ音樂會ヲ催シ其傍聽券ノ代價ヲ以テ本校設立費ノ幾分ヲ補ハントス仰キ希クハ四方ノ諸君某等ノ微衷ヲ諒察セラレ慈善ノ心ヲ以テ之ヲ贊同セラレンコトヲ

明治廿四年十月　大日本婦人教育會

改良進歩 頴才新誌

毎土曜發每號附錄一部
金二錢十部前金十八錢
府外郵稅五厘ッヽ

（投書隨意）（見本進呈）

本誌ハ
漢文學ヲ研究スルニ
國文學ヲ研究スルニ
普通作文ヲ研究スルニ
詩學ヲ研究スルニ
歌俳學ヲ研究スルニ
理化學ヲ研究スルニ
必用ナリ

以上ノ學科ヲ研究スルニ本誌ハ尤モ適當ノ新誌ニシテ數千ノ投書家ト數万ノ看客トヲ有シ文章斬新奇警ナル詩歌俳ノ清新優美ナル其他理化學ノ新奇絶妙ナル又日本近代俊傑逸事雅言詳解ノ如キ鬼哭シ神怒リ花笑ヒ烟媚ルノ觀アリ附錄ニハ懸賞ノ詩和發句等ヲ載ス

神田美土代町三丁目　頴才新誌社

第三版

百人一首講義

上製美本　五十錢
並製淡裝　三十五錢
郵稅六錢
同　四錢

淸秋の讀書に宜し
歌留多遊びに宜し
遺物に宜し
詠歌に宜し

女學雜誌社

迎接日

毎木曜日午后三時ヨリ
横濱ハ第四土曜朝

巖本善治

診察所　日本橋區大傳馬町二丁目廿五番
住宅　外神田和泉橋通松永町二十三番

渡邊泰

女醫

下谷西黑門町廿二番地

荻野吟子

女學生諸君へ廣告

武道修練の有志者

當校内武道科に於ては當學期より他校の女學生諸子をして隨意入學を許す事と爲せり

其課目の時間割

	柔術	薙刀
月	午前ハ十時半ヨリ 午前ハ三時半ヨリ	
火		午前十時半ヨリ十二時迄
水	十時半ヨリ十二時マデ	午後四時半ヨリ
金	午後一時ヨリ二時半迄	
土		午後三時ヨリ

月謝は一科三十錢
兼習 五十錢

麹町區下六番町六番地

明治女學校

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世に婦人雜誌あれども或は高尙に失し或は卑近に流れ其中庸を得たるもの少しその中庸を得たるものは

日本婦人

の一あるのみ此雜誌は專はら婦人に適切なるものを選ひて載するものにして其項目は

●日本婦人　●傳記　●家政　●叢談　●文苑
●小說　●寄書　●批評

等にして尙序を追ふて改良し眞にわが國の婦人の良友さならんと欲するものなり

○毎月一回十日發行○定價三錢郵稅五厘○十冊前金廿七錢郵稅五錢

發行所　岡山縣岡山市大字上ノ町六十一番邸　同胞社

賣捌元　岡山縣岡山市大字上ノ町六十一番邸　細謹舍

●第十八回京濱婦人大祈禱會

來ル十月三十一日土曜日京橋區築地新榮敎會堂ニ於テ左ノ時間ニ開會ス

午前十時ヨリ十二時迄
主意獻身（羅馬書十二章十一節）
司會者　田村夫人

午後二時ヨリ四時迄
主意聖靈（約翰傳十四章十五節ヨリ十七節迄）
司會者　ピショップ夫人

學生募集

○本校ハ和英兩語ヲ以テ女子ニ普通幷ニ高等ノ諸學科ヲ授ク
○音樂ハ望ニ任セピヤノ、オルガン、バイオリン、琴等ヲ授ク
○本學年ヨリ新ニ敎師ヲ增聘シタリ
○志願者ハ受驗ノ上相當ノ級ニ入ルヿヲ得ベシ

明治廿四年十月

横濱山手百七十八番
ふゑりす女學校

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〳〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	一冊	金十大錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善悪之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼之介君著	昆虫植物金石採集法	一冊	同十錢
明治女學校敎師八木兼辰君著	和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著	鐙子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生

拾七號十月廿一日發兌せり

目錄

社説

穴居人種……(一)封建思想 (二)人道修行者 (三)武者修行者 (四)私利修行者……星野寗

漫筆

墓標……暗光子

月夜の感慨……(一)今日の信者 (二)平和 (三)慨氣……川合信水

武道家訓……(一)覺悟 (二)無油斷 (三)心氣力 (四)觀察力……天知子

親に後れたる當時の所感……(明治女學校)……鈴木げん子

立秋の感……(立教女學校)……堀塲いさ子

反省……(共立女學校)……吉武よし野

深く友情に感ず……(女子學院)……秋野すゞき

夏草を除く詞下……(女子神學校)……吉田千子

葦の一ふし……(共立女學校)……飯野蝶子

一定の主義を要す……(同上)……鈴木百子

感筆

萩のしづく……ひさご女史

寄書

女學生寫眞の感……鉄肝居士

客書

文學者の筆(甲)……原たか子

一册郵税共六錢　毎月一回女學雜誌社發兌

大本上下二册　紙數大約三千餘頁

再版第二豫約廣告

訂正增補 大日本人名辭書

附皇統系圖、伏見家系譜、京極家系譜、有栖川家系譜、閑院家系譜、藤原氏系圖、平氏系圖、源氏系圖、北條氏系圖、新田家系圖、足利氏系圖、織田氏系圖、豐臣氏系圖、德川氏系氏、巨勢家畫譜、宅磨家畫譜、土佐家畫譜、狩野家畫譜、謠曲五座家譜、淨瑠璃總系圖、長唄系圖、俳優系圖、茶流系圖、武術諸流系圖、刀劔師系圖、相撲、儒者學派、歌學派、古方家醫譜、方今家醫譜、鍼方家醫譜、西洋方家醫譜、大日本人傑年表

此書は上は帝王相將より下は士庶名媛工藝諸雜家に至る迄苟も有名なる者は皆之を網羅したる者にして其傳記二萬有餘に及べり故に日本古來の人物を知らんと欲するもの此書より宜きはなし然るに其前版は既に賣盡したるを以て其需要に應ずることを得す爲に世間往々價金三十圓内外を以て賣買するに至れりと聞く豈文苑の欠典あらずや故に弊社は更に訂正を加へ四百餘名の傳記を增加し(行數を詰め紙數を節し因て其價を減し)再版するに決せり然るに再版亦巨費を要するを以て勢豫約に依賴せざるを得ず願くは江湖諸彦速に此募集に應ぜられ弊社をして此事業を爲すを得せしめられんことを

一此書定價十二圓にして豫約價左の如し

本年十月中に入金するもの　金七圓

一本年十一月出來

近年建碑の事非常に流行すと雖も芳名を永遠に傳ふるに至ては之を此書中に加るに如かず有名なる人士の子弟たるもの請ふ父兄の紀傳を寄送するを惜むなかれ弊社は審議の上之を掲載することあるべし

明治廿四年九月

東京市京橋區彌左衛門町七番地

經濟雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

産婆生徒募集廣告

本院産科教學室內産婆養成所ニ於テ産婆生徒四十名試驗ノ上來ル十一月入學ヲ許ス家事ニ係累ナキ滿二十五歲以上ノ婦人ニシテ望ノ者ハ本院事務室ニ就キ諸規則手續等承知ノ上本月廿五日限願書差出受驗トシテ十一月一日正午十二時出頭スベシ但規則書入用ノ向ヘハ郵送スベシ

東京本郷區元富士町
廿四年十月一日
醫科大學第一醫院

記事 論說 國文作例

一冊美本 正價金卅五錢 郵稅四錢

第一高等中學校教授久米幹文先生●同文學士高津鍬三郎●同國學專門大學卒業生和田秀松先生校閲
●河西嘉金次、長瀨市太郎兩先生編纂

本書ハ古文の精華を抜萃して之を記事、論說、物語、詞文、序、題、跋、贊、箇牘、に類別し且文法、雅言、俗解、文詞、を附して作文の資料を大成したるものなり

發行所 本郷二丁目 明文堂　京橋弓町 松村書店

廣告

本會儀今般移轉致候處會員中住所不明之者有之名簿調製上差支候間至急御一報願上候
追テ機關雜誌發行ノ計劃ニ候間改正規則書御入用ノ諸兄姉ハ郵券二錢御送付ヲ乞

芝區新堀町三十一番地
大日本進德會假事務所

專賣新發明 特許 廣告封箋

許特出願中

代價十枚ニ付第一號金四錢第二號金三錢第三號第二錢五厘第四號金二錢第五號金一錢五厘

●廣告料一行廿字詰一萬枚ニ付金五錢

●廣告封箋ハ卷紙ヲ用ヒスシテ書狀トナリ又包紙ニモ用ヒラル、便利ノ發明品ナリ

●廣告封箋ハ體裁高尙優美ニシテ安價ナレハ何方ニモ愛翫使用セラル、發明品ナリ

●廣告セハ郵便ヲ利用スルカ故ニ名聲忽チ四方ニ傳播シ商賣ノ繁榮ヲ謀ルニハ最上ノ利器ナリ

發賣所 東京市本郷區春木町三丁目卅五番地 瓢成舍

廣告	一行	十錢宛	
雜誌	一冊	六錢	郵稅 五厘（但府內無郵稅）
	十一冊	五拾八錢	郵稅 五錢（同前）
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は 壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は 貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

本院産科教學室内産婆養成所ニ於テ産婆生徒四十名試驗ノ上來ル十一月入學ヲ許ス家事ニ係累ナキ満二十五歳以上ノ婦人ニシテ望ノ者ハ本院事務室ニ就キ諸規則手續等承知ノ上本月廿五日限願書差出受驗トシテ十一月一日正午十二時出頭スベシ但規則書入用ノ向ヘハ郵送スベシ

廿四年十月一日

東京本郷區元富士町

醫科大學第一醫院

第一高等中學校教授久米幹文先生●同文學士高津鍬三郎
●同國學專門大學卒業生和田秀松先生校閲
●河西嘉金次、長瀬市太郎兩先生編纂

記事論説

國文作例

一冊美本 正價金卅五錢 郵税四錢

本書ハ古文の精華を抜萃して之を記事、論説、物語、詞文、序、題、跋、贊、簡牘、に類別し且文法、雅言、俗解、文詞、を附して作文の資料を大成したるものなり

發行所 本郷二丁目 册文堂　京橋弓町 松村書店

廣告

本會儀今般移轉致候處會員中住所不明之者有之名簿調製上差支候間至急御一報願上候

追テ機關雜誌發行ノ計劃ニ候間改正規則書御入用ノ諸兄姉ハ郵劵二錢御送付ヲ乞

芝區新堀町三十一番地

大日本進德會假事務所

專賣特許 新發明

廣告封筒

特許出願中

代價十枚ニ付第一號金四錢第二號金三錢第三號第二錢五厘第四號金二錢第五號金一錢五厘

●廣告料一行廿字詰一萬枚ニ付金五錢

●廣告封筒ハ卷紙ヲ用ヒスシテ書狀トナリ又包紙ニモ用ヒラル、便利ノ發明品ナリ

●廣告封筒ハ體裁高尚優美ニシテ安價ナレハ何方ニモ愛翫使用セラル、發明品ナリ

●廣告セハ郵便ヲ利用スルカ故ニ名聲忽チ四方ニ傳播シ商賣ノ繁榮ヲ謀ルニハ最上ノ利器ナリ

發賣所 東京市本郷區春木町三丁目卅五番地 瓢成舍

廣告	一行	十錢宛			
雜誌	一册	六錢	郵税。五厘		(但府内無郵税)
	十一冊	五拾八錢	郵税。五錢		(同前)
定價	半年分	壹圓四拾三錢		府外は	壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢		府外は	貳圓八拾六錢

東京市麹町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三